

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大河原町立大河原南小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-1201

宮城県柴田郡大河原町大谷字鷺沼入27番地1

E-mail minamisyo@ogawara-k.miyagi.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 143 名 女子 120 名 合計 263 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「主体的・創造的に学び、心豊かで、たくましく生きる児童の育成」を学校教育目標として、活力ある学校づくりと子供たち一人一人のよさや可能性を伸ばす教育の実践に努めている。ESD では、①国際理解教育 ②平和・人権・福祉教育、③環境・緑化教育を柱に、地域とふれあいながら一人一人が互いに協力し、様々な課題に力を合わせて取り組み活動を行った。

① 国際理解に係わる活動

- ・世界には食べるものがなかったり、病気になっても治療を受けたりできない子供たちがいることについて福祉広報委員会（児童会活動）が中心になって説明し、ユニセフ募金を行った。
- ・宮城国際化協会（MIA）の協力で世界の国々の人のお話を聴く活動を行っている。29 年度は 4 年生を対象に、韓国、イタリア、アルジェリアの人との交流をおこなった。
- ・イギリスのエスコム小学校とインターネットで、それぞれの学校の様子を紹介しあう活動を行った。

② 平和・人権・福祉に係わる教育

- ・全校児童を対象として、全盲のドラマー（Soul Breezin'）佐藤氏のコンサートをを行い、その後5年生で佐藤氏の講話を聞いた。
- ・地域の特別養護老人ホームでの演奏や福祉施設との交流を行った。
- ・各種募金活動の意義を訴えるとともに、防災教育において「共に生きる」ことについて、考える授業を展開した。

③ 環境・緑化に係わる学習

- ・全学年で花壇の整地や作物の栽培を行っている。栽培活動では、地域の JA 女性部の協力をもらいながら、1・2年生はサツマイモ、3年生はサトイモの栽培をし、秋の収穫祭で地域の方々に配ったりもしている。また、4年生ではかぼちゃ、6年生でじゃがいもを栽培し自然の豊かさを実感するとともに、食育に活用した。
- ・29年度は、宮城県の愛鳥推進校として、5年生が実のなる木の植栽や巣箱作りを行った。また、蔵王野鳥の森自然観察センター（ことりハウス）での観察やセンター職員から野鳥についての話をしてもらうなど自然の生態系についての学習を進めた。

④ その他

- ・秋に収穫の喜びを味わい、地域との交流を深める「もがり祭」（収穫祭）を行っている。全校でのもちつきや収穫した野菜を使っての豚汁づくり、地域に出て行ってのみこしパレードなど盛大に行っている。
- ・伝統文化教育として、もがり太鼓に地域の方にも協力いただきながら取り組み、学習発表会で披露している。



① の写真（国際交流活動）



② の写真（視覚障害についての話）



③ の写真（栽培活動・サツマイモ植え）



④ の写真（もがり祭パレード）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・『未来へのきづな』みやぎ防災教育副読本…宮城県教育委員会

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育計画に持続可能な開発のための教育（ESD）計画を掲載し共通理解を図っている。指導内容は、①国際理解教育 ②平和・人権・福祉教育 ③環境・緑化教育 ④その他 に分類している。また、①について、「ユニセフ募金」は児童会、国際交流（MIA）とイギリスのエスコム小との交流は4年生の総合的な学習 ②のキャップハンディ体験や視覚障害者の講話は5年生の総合的な学習 ③の花壇は全学年で栽培などのように教育課程に位置付けている。そして、年度末に各行事や教育課程の反省を行い、改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

平成29年度は、ESDの基本的な考え方や本校の教育との結びつきについての研修を行い、全職員の共通理解と共通行動ができるようにした。また、本校の教育活動とESDに関わる内容をリストアップ・整理し教育計画に位置づけた。各内容については、それぞれで反省し、次年度に反省を生かし、充実した活動ができるよう計画を練り直すなど改善を図った。学習環境の充実・整備を図るために29年度と30年度の「ユネスコアシストプロジェクト」に応募し、学習環境の整備にも力を入れている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各行事の反省については、その都度職員が反省している。また、PTAが協力している行事（「もがり祭」収穫祭）については、PTAの運営委員会でも反省を出してもらい改善に役立てている。また、総合的な学習や学活などの教育課程では、計画に改善点などを朱書きし次年度に引き継ぐようにしている。

国際交流活動や福祉体験活動では、ゲストティーチャーの体験を聴くことで、世界の様々な文化や風習に驚きながらも自分の中で世界を広げている。また、人との関わりを大切にした学習を充実させることで、互いの個性を認め合い、相手を尊重する児童の育成が推進できた。

課題は、それぞれの活動がしっかりと行われているのか確認する必要がある点があげられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD に特化した情報の発信は特に行っていないが、1年生の栽培活動について JA の壁新聞コンクールに応募し、もがり祭等の行事については HP や学校便り等で地域に発信している。学校便りや PTA 会報は地域の全世帯に見てもらうことで、多くの協力が得られている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

国際交流活動では、宮城県国際化協会(MIA)、福祉教育は、町社会福祉協議会や Soul Bleezin'、特別養護老人ホームやさくら福祉作業所の協力をもらっている。栽培活動では、地域の農家の方や JA 女性部、また、自然観察活動では、蔵王野鳥の森観察センター(ことりはうす)の協力をもらいながら活動を進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールではないが、本校4学年児童が総合的な学習でイギリスのエスコム小学校との交流を進めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

本校は校地が広く栽培園が充実している。開校当初から地域の方に協力していただき植栽活動や収穫、そして地域をあげての収穫祭を行っている。自然の恵みに感謝する心、勤労の精神、そして何より保護者や地域とのつながりによる協働教育の視点に立った、体験的な活動の教育的効果は大である。
また、宮城県国際化協会(MIA)や地域の福祉施設との交流により、子供たちは視野を広げ、様々な人たちが協力しながら社会を形成していることに気付き、持続可能な社会を作ろうとする心情を育てることに役立っている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ① 緑化活動… 緑の少年団、緑化委員会を中心として年間を通じての植栽や花壇の整備を行う。
- ② 栽培活動… 学級園を利用し、1・2年生はサツマイモ、3年生はサトイモ、4年生はカボチャ、5年生はエダマメ、6年生はジャガイモ、特別支援学級と教職員で様々な作物の栽培に取り組む。
- ③ 国際交流… 4年生を中心にイギリスの小学校(エスコム小)と交流したり、宮城県国際化協会(MIA)に協力頂き、外国の文化や風習を調べたりする。
- ④ 防災・減災… 防災カルタやクロスロードゲーム等を活用し、防災や減災について学ぶ活動を行う。
- ⑤ その他 … 人権教室やキャップハンディ体験等の人権・福祉教育の充実を図る。